発行 **芙蓉書房出版** × 発売 図書出版 株式会社かなえ ＝ **電子書籍**

Publishers
パブリッシャーズ

図書出版かなえの Publishers とは、各出版社の優良コンテンツを電子書籍化し、大学・公共図書館が導入している「電子図書館サービス」に搭載する販売モデルです。研究者や学生の皆様はもとより、一般読者にも電子図書館の便利さをご理解いただく、コンテンツサービスです。

下記のタイトルは電子図書館サービスでの販売となります。

芙蓉書房出版
https://www.fuyoshobo.co.jp/

芙蓉書房出版は、社会科学・国際政治・安全保障・歴史など幅広い分野を対象とした書籍の出版を手がけています。専門的な知見をわかりやすく伝えることを重視し、研究者や実務家の視点を融合させた高品質なコンテンツを世に送り出すことを目指しています。
最新の国際情勢から過去の歴史的事象までを多角的に分析し、読者に新たな知見と深い洞察を提供することを使命としてます。

『千九百四、五年露日海戦史』の価値

① 編纂当時は日露協商の時代。後のスターリン時代のような極端な大国意識やイズム、反日史観の影響もないきわめて公平な史書である。

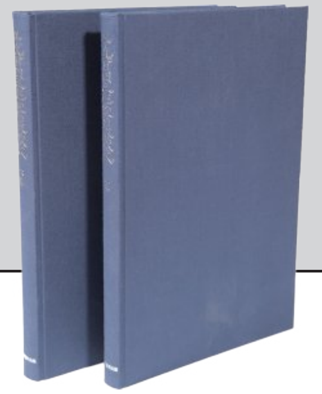
② 表題からは「作戦・戦闘を中心とした戦史」という印象を受けるが、随所に、戦局の変化に伴う諸外国の対応の変化や、ロシア政府・皇帝の日露戦争への対応が丹念に記述され、積極策のロシア陸軍、消極策のロシア海軍と外務省、ふらつく皇帝という構図も読みとれ、ロシアの政治史や外交史研究者にも価値ある史書である。

③ ロシア海軍省や極東総督府の対日戦争計画に対する会議での発言や所見、ニコライ海軍大学の対日図上演習のシナリオや演習統裁官・参加者の発言などには、ロシアの戦争目的、戦勝後の対日政策なども記されている。日露戦争に対するロシアの意図が赤裸々に記されていることに、読者は黙想せざるを得ないのではないか。この視点から、本書は日露戦争史研究の原点ともなりうる史書である。

④ 各作戦ごとに、計画、実施・反省・批判、指揮官・幕僚の発言がまとめられているが、それに対する批判の辛辣さはいかなる国の戦史にも例を見ないほど厳しい。第五巻が刊行されなかったというが、こうした厳しさから何らかの内部トラブルが生じ、印刷刊行そのものが中止されたといわれている。

⑤ 本書は日本海軍から寄贈された『明治三十七八年海戦史』を参照しており、構成も内容もきわめて類似している。随所に日本側の戦史に対する反論もあり、日露両国の戦史を比較研究することによって、日露両国の海軍が何を誇張し、何を隠しているかが明らかになる。そこから新しい視点も生まれるのではないか。

【お奨めします】
軍事史、近代史、ロシア史、外交史、メディアの研究者、大学図書館、公共図書館



日露海戦史集成 全2回配本

日露戦争120年。「日本から見た記録」と「ロシアから見た記録」を電子書籍で2025年10月に同時刊行！

第1回配本 **千九百四、五年露日海戦史** 全2巻
ロシア海軍軍令部編纂［日本海軍軍令部訳］

第2回配本 **明治三十七八年海戦史** 全2巻
海軍軍令部編纂

日露戦争の海戦は、魚雷や機雷などの新しい兵器が初めて大量に使われたことや、日露両国の大艦隊が激突した日本海海戦などで、海戦史上きわめて大きな影響を世界の海軍に与えた。その記録として、『千九百四、五年露日海戦史』と『明治三十七八年海戦史』を同時に電子書籍化したことにより、幾多の用語を横断検索でき、日露海戦史研究の資料としての価値が格段に上がったといえる。
『明治三十七八年海戦史』は、当時の海軍が勝利した戦争の経緯を広く国民に知らしめるために公刊したもので、『千九百四、五年露日海戦史』もロシア海軍による辛辣な批判とともに刊行された。
一方『千九百四、五年露日海戦史』も日本海軍軍令部は入手し翻訳し印刷したが海軍内部での配布にとどめ研究者の目に触れることが少なかった。
今回こうして両国それぞれの立場で書かれた資料を電子書籍として刊行することは、戦争史や外交史研究において意義深い刊行である。

日露海戦史集成 全２回配本

第１回配本	第２回配本
『千九百四、五年露日海戦史』全２巻	『明治三十七八年海戦史』全２巻
ロシア海軍軍令部編纂［日本海軍軍令部訳］	海軍軍令部編纂
ISBN：978-4-86759-753-8	ISBN：978-4-86759-754-5
同時１アクセス・・・本体価格 110,000 円＋税	同時１アクセス・・・本体価格 165,000 円＋税
同時３アクセス・・・本体価格 220,000 円＋税	同時３アクセス・・・本体価格 330,000 円＋税
解題 / 平間洋一 (元防衛大学校教授)	

※『千九百四、五年露日海戦史』は、芙蓉書房出版発売、『明治三十七八年海戦史』は、東京水交社蔵版・内閣印刷局朝陽會発行・東京表現社発売からの電子書籍化となります。

本書の印刷書籍版をご希望の場合は、
メールアドレス（info@fuyoshobo.co.jp）または、FAX（03-5579-8786）で芙蓉書房出版へご注文ください。

株式会社かなえ
〒171-0014 東京都豊島区池袋2-30-18-202
TEL : 03-6912-7238 FAX : 03-6912-7239
Email : info@kanae-book.co.jp
URL : https://kanae-book.co.jp

取扱店
Maruzen eBook Library
丸善のライブラリアン向け情報サイト Library Navigator
最新情報をご案内中！QRコードからご覧頂けます

No. 2025-127

第一回配本『千九百四、五年露日海戦史』収録内容

解題「日露海戦史研究と『露日海戦史』」（平間洋一 元防衛大学校教授）

■上巻収録内容■

【第一巻・上】

第一章 露日海軍ノ配備及比較、海戦場略記、戦前露日両国ノ国際的状況
第二章 露軍ニ於ケル最高指揮権、露軍作戦計画
第三章 日軍ニ於ケル最高指揮権、日軍作戦計画
第四章 極東ニ於ケル一般ノ形勢、千九百四年一月開戦前ニ於ケル露国艦隊の状態
第五章 千九百四年一月二十六日（二月八日）ヨリ二十七日（八日）ニ亘ル夜中水雷攻撃
第六章 戦争第一日＝千九百四年一月二十七日（二月九日）旅順口外ノ戦闘
第七章 戦争第一日一等巡洋艦「ワリヤーグ」及航洋砲艦「コレーエッツ」ト日本瓜生海軍少将麾下戦隊ト仁川附近ノ海戦

【第一巻・下】

第八章 戦争第一日ト航洋砲艦「マンヂュール」ノ上海ニ於ケル武装解除
第九章 千九百四年一月二十七日（二月九日）以降二月二十四日（三月八日）ニ至ル開戦当初ニ於ケル関東州沿岸ノ防備
第十章 千九百四年一月二十七日（二月九日）以降二月八日（二十一日）極東太守奉天ニ向ヒ出発ニ至ルマテノ艦隊ノ行動
第十一章 千九百四年二月八日（二十一日）以降二月二十四日（三月八日）ニ至ル艦隊ノ行動
第十二章 マカロフ中将ノ任命、同中将ノ作戦計画及太平洋艦隊統率中其ノ行動ニ関スル一般意見
第十三章 二月二十四日（三月八日）以降二月二十八日（三月十二日）ニ至ル艦隊ノ行動、駆逐艦「スチエレグーシチー」ノ沈没、駆逐隊ノ夜戦老鉄山背面ヨリノ第一回砲撃艦球ノ第一回出動
第十四章 二月二十八日（三月十二日）ヨリ三月十四日（二十七日）ニ至ル間ニ於ケル我艦隊ノ行動、老鉄山背後ヨリ行ハレタル敵艦隊ノ第二回砲撃、敵閉塞船隊ノ第二回襲撃
第十五章 三月十五日（二十八日）ヨリ三月三十一日（四月十三日）ニ至ル間ニ於ケル我艦隊ノ行動、駆逐艦「ストローシヌイ」及戦艦「ペトロパウロフスク」ノ沈没及マカロフ中将ノ戦死
第十六章 四月一日（十四日）ヨリ四月二十二日（五月五日）ニ至ルアレクセーエフ大将ノ直接指揮中ニ於ケル我艦隊ノ行動、老鉄山背後ヨリ行ハレタル敵ノ第三回砲撃、第三回港口閉塞及旅順口ノ遮断

■下巻収録内容■

【第二巻】

第一章 四月二十二日（五月五日）ヨリ五月一日（十四日）ニ至ル間ニ於ケル旅順港口ニ於ケル事件
第二章 五月一日（十四日）及同月二日（十五日）ニ於ケル事件
第三章 五月二日（十五日）ヨリ五月十四日（二十七日）ニ至ル間ニ於ケル旅順港ニ於ケル事件
第四章 金州ノ防禦戦
第五章 五月十四日（二十七日）二十日（六月二日）及二十三日（六月五日）ノ軍事会議
第六章 五月十四日（二十七日）ヨリ六月一日（十四日）ニ至ル間ニ於ケル旅順港ニ於ケル事件
第七章 六月一日（十四日）ヨリ六月十日（二十三日）ニ至ル間ニ於ケル旅順港ニ於ケル事件
第八章 六月十日（二十三日）露国艦隊旅順港ヲ出ツ
第九章 五月及六月前半期ニ於ケル満洲方面ノ戦況並五月中ニ於ケル日本艦隊ノ行動
第十章 六月十日（二十三日）ヨリ七月二十八日（八月十日）ニ至ル旅順港ニ於ケル軍事会議及総指揮官トウイットゲフト提督トノ往復文書
第十一章 六月十日（二十三日）ヨリ七月一日（十四日）迄ノ旅順港ニ於ケル事件
第十二章 自六月三十日（七月十三日）至七月十七日（三十日）旅順港口ニ於ケル事件
第十三章 七月十七日（三十日）ヨリ同月二十八日（八月十日）ニ至ル間ニ於ケル旅順港ニ於ケル出来事
第十四章 旅順港泊地ノ防備、掃海隊ノ編成、軍事通信
第十五章 六月十日（二十三日）ノ艦隊出動後七月二十八日（八月十日）ノ海戦ニ至ル迄ノ間ニ於ケル我満洲軍ノ戦況
第十六章 営口ノ防備、航洋砲艦「シウーチ」ノ運命

【第三巻】

第一章 千九百四年七月二十八日（八月十日）ニ於ケル第一太平洋艦隊ノ旅順港出港準備
第二章 千九百四年七月二十八日（八月十日）ニ於ケル旅順港艦隊ト日本艦隊トノ海戦
第三章 第二合戦、七月二十八日（八月十日）夜間ニ於ケル敵ノ水雷襲撃及我艦隊其後ノ行動
第四章 七月二十八日（八月十日）ノ海戦及其後ニ於ケル各艦ノ行動

【第四巻】

第一章 七月二十八日（八月十日）ノ黄海々戦後ニ於ケル艦隊ノ状態
第二章 七月二十九日（八月十一日）ヨリ八月十二日（二十五日）ニ至ル海上ノ事件
第三章 七月三十日（八月十二日）ヨリ八月十二日（二十五日）ニ至ル陸正面ノ事件（第一回総攻撃）
第四章 八月十二日（二十五日）ヨリ同二十四日（九月六日）ニ至ル軍艦及錨地ニ於ケル事件
第五章 八月二十四日（九月六日）ヨリ九月五日（十八日）ニ至ル軍艦及泊地並海上ニ於ケル事件
第六章 第二回総攻撃
第七章 九月五日（十八日）ヨリ九月二十六日（十月九日）ニ至ル軍艦、軍港及泊外地ニ於ケル事件
第八章 九月二十六日（十月九日）ヨリ十月十八日（三十一日）ニ至ル軍艦、軍港並港外泊地及海上ニ於ケル事件（第三回強襲）
第九章 九月二十六日（十月九日）ヨリ十月十八日（三十一日）ニ至ル陸上陣地ニ於ケル事件（第三回強襲）
第十章 （水雷戦）十月十八日（三十一日）ヨリ十一月十二日（二十五日）ニ至ル艦隊、軍港、港外泊地及海上ニ於ケル事件
第十一章 十月十八日（三十一日）ヨリ十一月十二日（二十五日）ニ至ル陸正面ニ於ケル事件（坑道戦）
第十二章 二百三高地及「プロスカヤ」山「ヂウィジオンナヤ」山並「カメノロムナヤ「山角面ニ対スル強襲
第十三章 十一月十二日（二十五日）ヨリ二十六日（十二月九日）「セワストーポリ」ニ対スル水雷攻撃開始迄ニ至ル艦隊ノ行動及状況（第一太平洋艦隊ノ最後）
第十四章 敵駆逐艦ノ戦艦「セワストーポリ」攻撃並十一月二十六日（十二月九日）ヨリ十二月三日（十六日）ニ至ル海上ノ事件
第十五章 十一月二十三日（十二月六日）ヨリ十二月十九日（一月一日）ニ至ル陸正面ニ於ケル事件（要塞ノ苦悶）
第十六章 十二月三日（十六日）ヨリ十九日（一月一日）ニ至ル海上泊地及港内ニ於ケル事件
第十七章 防禦ノ最終日
第十八章 〈章タイトル欠落〉
第十九章 七月二十八日（八月十日）ノ海戦後ヨリ旅順港陥落ニ至ル迄ノ満洲軍ノ状態

【第五巻】

日本海軍軍令部は「原本未入手」としているが、ロシア海軍内部のトラブルで刊行できず欠巻になったものと思われる。

【第六巻】

第一章艦隊ノ出師準備及格倫斯達土ヨリ「リバーワ」ヘノ回航
第二章艦隊「リバーワ」ヲ出港シ「タンジエル」ニ向フ
第三章艦隊ノ主力「タンジエル」ヨリ「マダガスカル」ニ向ケ出動ス
第四章海軍少将「フェリケルザム」ノ率キル独立枝隊「タンジエル」ヨリ「マダガスカル」ニ回航ス
第五章第二太平洋艦隊ノ「マダガスカル」碇泊
第六章第二太平洋艦隊ノ「マダガスカル」島出動差止
第七章「ドプロッウォルスキー」大佐ノ率キル独立枝隊ノ艤装及「ノッシベ」湾ニ於テ艦隊ト合同スルマテノ航海
第八章第二太平洋艦隊ノ「マダガスカル」在泊ノ其後
第九章「マダガスカル」島より安南海岸ニ至ル艦隊ノ航進
第十章安南海岸ニ於ケル第二太平洋艦隊
第十一章第三太平洋艦隊ノ準備
第十二章「ネボガートフ」枝隊ノ「ロジエストウエンスキー」艦隊ニ合同スルマテノ航海
第十三章最終ノ渡航ニ対スル艦隊ノ準備
第十四章安南海峡ヨリ朝鮮海峡ニ至ル艦隊ノ行動
附録一、二

【第七巻】

第一章千九百五年五月ニ至ル我艦隊ノ戦略的配備、戦略的目的ニ対スル各種ノ手段、中間根拠地、敵側ニ有利ナル諸問題ノ解決法、「ロジエストウエンスキー」中将ノ作戦計画、示威運動
第二章露国艦隊ノ編制並其実力
第三章日本艦隊ノ編制及露国艦隊邀撃
第四章戦闘前ニ於ケル最後ノ航海
第五章対馬海戦
第六章駆逐隊ノ襲撃、五月十五日（二十八日）ノ戦闘、露国艦隊ノ最後

第二回配本『明治三十七八年海戦史』収録内容

■上巻収録内容■

◎第一篇旅順口ノ露国艦隊ニ対スル作戦

第一章 戦役の起因及ビ開戦
第二章 開戦前ニ於ケル日露艦隊ノ行動
第三章 聯合艦隊ノ発進
第四章 仁川沖ノ海戦
第五章 旅順口第一次攻撃
第六章 旅順口第二次攻撃
第七章 旅順口第三次攻撃及ビ第一回閉塞
第八章 旅順口第四次攻撃
第九章 旅順口第五次攻撃
第十章 旅順口第六次攻撃及ビ第二回閉塞
第十一章 旅順口第七次攻撃及ビ第八次攻撃
第十二章 旅順口第三回閉塞
第十三章 第三回閉塞後ニ於ケル艦隊ノ動作並ニ封鎖宣言
第十四章 敵艦隊ノ出港
第十五章 敵艦隊出港後ニ於ケル聯合艦隊ノ行動
第十六章 黄海海戦
第十七章 黄海開戦後ニ於ケル艦隊ノ行動

◎第二篇陸軍トノ共同作戦

第一章 第一軍ノ上陸窪雄ニ前進援助
第二章 第二軍ノ輸送上陸掩護
第三章 第十師団ノ南尖子上陸掩護
第四章 蓋平方面ノ第一次出動
第五章 第二軍ノ金州攻撃援助
第六章 蓋平方面ノ第二次出動
第七章 第三軍ノ前進応援
第八章 営口方面ノ警備
第九章 済遠支援ノ第三軍応援
第十章 旅順要塞戦ノ梗概並ニ海軍陸戦重砲隊ノ戦況

■下巻収録内容■

◎第三篇浦鹽斯徳ノ露国艦隊ニ対スル作戦

第一章 三艦隊ノ朝鮮海峡警備附第六戦隊ノ上海派遣
第二章 艦隊ノ浦鹽方面第一次出動
第三章 艦隊ノ浦鹽方面第二次出動
第四章 浦鹽斯徳艦隊ノ朝鮮海峡出現
第五章 浦鹽斯徳艦隊朝鮮海峡再度ノ出現
第六章 浦鹽斯徳艦隊太平洋方面出動
第七章 蔚山沖海戦
第八章 蔚山沖海戦後ニ於ケル第二艦隊ノ行動

◎第四篇日本海開戦

第一章 露国増遣艦隊ニ対スル作戦準備
第二章 露国増遣艦隊東航始末
第三章 五月二十七日ノ海戦（第一合戦）
第四章 五月二十七日夜ノ戦闘（第二合戦）
第五章 五月二十八日ノ戦闘（第一合戦乃至第十合戦）
第六章 戦闘後記

◎第五篇日本海海戦ノ作戦

第一章 作戦開始以前ニ於ケル聯合艦隊ノ行動
第二章 北遣艦隊ノ樺太方面ニ於ケル行動
第三章 第一艦隊及ビ第二艦隊ノ行動

◎第六篇平和克復

第一章 講和条約ノ締結
第二章 休戦地域ニ関スル協定
第三章 聯合艦隊ノ凱旋
第四章 凱旋観艦式
第五章 聯合艦隊ノ解散

試読できます。
こちらから
↓

★組見本は弊社専用試読サイトをご覧ください。